

## 令和5年度「市民と議会の対話集会」記録

### 文教民生委員会

- 開催日時 令和5年11月8日（水）14：00～15：00
- 開催場所 福岡総合事務所 世代交流室
- 懇談先 作業所の利用者と保護者 11名（雇用される立場）
- 出席議員 文教民生委員  
鷹見憲三（委員長）、勝 彰（副委員長）  
黒田ところ、吉村孝志、田中愛子、小池菜摘、糸魚川伸一
- 懇談テーマ 障がい者の雇用・就労支援について

#### ■懇談内容

##### 【現在の活動状況及び困っている点について】

（利用者の意見）

- ・表では売り場や出しの仕事をし、裏では詰めの仕事を行っている。いろいろなことをやっている。
- ・キノコを栽培して販売する仕事をしている。キノコを栽培していない時は他社からの仕事をしている。
- ・B型就労では仕事のよくできる子とできない子で差をつけてあげることが大事だと思う。そうすればやる気が出てくると思う。社長が検討してくれている。
- ・一般就労を進めるには企業側の理解がないと難しい。B型の給料だけでは生活ができない。
- ・今の仕事は、雇ってもらえるのであればアルバイト形式で一般就労として頑張りたい。
- ・作業所では関心することもあるが、おかしいと思うこともある。障がいと言っても一人一人特性が違う。体の障がいもあれば、精神の障がいもある。外見でわからない。作業所では箱を折ったり、毎日同じことを繰り返し行い、一日働いて二千円の収入。もの足りない。
- ・クルマ部品の作業を委託されて内職でやっている。
- ・A型を探しているが、相談員が2名しかおらず、後回しにされてしまうことがある。相談員を増やしてもらいたい。
- ・中津川市内まで行けば仕事はあるが、交通費が出ない。福岡であれば通えるが中津川市内までは通えない。
- ・電装の仕事をしている。時々、草取りなども行う。

- ・リサイクルセンターで缶の選別をしている。

(保護者の意見)

- ・障がい者と言ってもいろいろな種類がある。娘はできそうでできない。目が悪い。体は半分不自由。見た目ではわからない。作業所までは50mしか離れておらず喜んで通っている。
- ・A型作業所はB型作業所と違い作業のできる人が働いているが、親の目からみても大変だと感じる。B型からA型に変わった人の中には仕事についていけずB型に戻ってくる人もいる。
- ・自分が後期高齢者になり亡くなった後が不安である。B型作業所では柔軟に対応してもらえるとありがたい。

【通勤の方法について聞きました。】

- ・自分の車で通勤 2名 ・作業所の送迎 6名 ・徒歩で通勤 3名  
という結果でした。

【現在の仕事の他にやってみたい仕事を聞きました。】

- ・現在の仕事がいい。(6名)
- ・今の仕事以外では英語の翻訳業や店舗運営を行ってみたい。
- ・今の仕事以外では、一般就労で掃除とかこまごまやってみたい。
- ・介護の仕事をやりたい。
- ・金属・木工の加工をやりたい。